

生産者のみなさまへ

被覆肥料の 被膜殻の流出防止 にご協力ください



被覆肥料は、軽労化や施肥量の削減につながるなどの利点がありますが、表面をプラスチック等の被膜でコーティングしているため、水田では肥料成分が溶出した後の被膜殻が水面に浮上し、河川等へ流出する可能性があります。



水田外へ流さないために

まずは出来る取組から始めましょう！



被覆肥料



河川等へ流出した被膜殻

作業のポイント

畦畔管理

- あぜが崩れていないかを確認し、必要に応じてあぜ塗りやあぜシートを設置する。

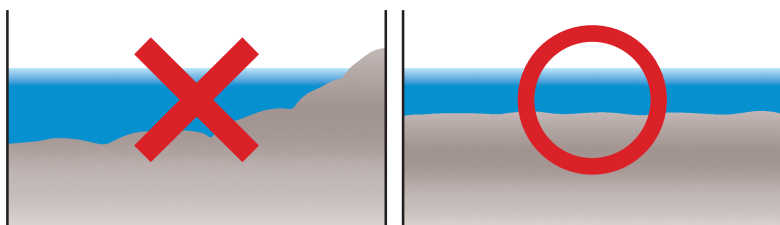
重要

浅水代かき

流出した被膜殻の大半がこの時期のものです。

- 入水までに田面の**高低差**をなくす。
- 代かきは**浅水**で行う（表面が7～8割見える程度）。
- 田植え前の落水は行わず、**自然落水**で水位を調整する。

※これらは被膜殻だけではなく、濁水や肥料成分の流出防止にも有効な取組です。



入水までに田面の高低差をなくす



代かきは浅水で

施肥方法・肥料の見直し

- 樹脂を使用していない肥料や流し込み液肥を導入する。
- 堆肥や緑肥などの有機質肥料を導入する。
- 土壌診断や栽培暦等に基づいた適正施肥に努める。
- 施肥量の削減につながる側条施肥技術を導入する。



樹脂を使用していない肥料

※肥料についてのお問い合わせはJA・肥料販売店をお願いします。

お問い合わせ先
一覧



対策
動画



被覆肥料に
関する情報

